

薬用植物「甘草(カンゾウ)」の国内短期栽培技術確立のお知らせ

王子ホールディングス株式会社は、このほど、薬用植物「甘草(カンゾウ)」の栽培研究によって、第17改正日本薬局方に定める薬効成分含量(グリチルリチン酸含量 2.0%以上)を満たす短期(種子を播いて収穫まで2年)栽培技術を、日本で初めて開発いたしましたのでお知らせします。

■甘草の国内短期栽培技術について

「甘草」は、漢方薬の約7割に使用されているだけでなく、化粧品や食品・雑貨等で幅広く使用されている薬用植物です。現状では、野生品の輸入に依存していますが、乱獲による資源枯渇が危惧されており、中国では輸出規制の対象となっています。

近年、日本国内での甘草栽培研究が進められていますが、栽培では薬局方基準(グリチルリチン酸含量 2.0%以上)を達成することが難しく、達成する場合も栽培期間が長期(5~6年)であるという課題がありました。

当社は、2013年に医療植物研究室を設立し、甘草をはじめとした薬用植物の栽培研究に取り組んでまいりました。甘草について、各種栽培条件におけるグリチルリチン酸含量および生長の解析を行った結果から、栽培期間(種子を播いて収穫まで)を2年に短縮しながら薬局方基準も満たす栽培技術を確立しました(当社栽培試験地での実証試験にも成功)。

■今後の展開について

当社が開発した技術は、漢方原料としての甘草国内栽培化と国産品の普及に大きく貢献できるものと考えています。

今後、漢方薬等の医薬品原料としての販売を目指すとともに、日用品や化粧品等の原料化も視野に、国産甘草の良さやトレーサビリティを重要視されるお客様と共に、新規ビジネスの柱の一つとして注力してまいります。



甘草栽培試験地(左・北海道)と収穫した甘草の根(右・2年生乾燥根)

【本件に関するお問い合わせ先】

王子ホールディングス株式会社

イノベーション推進本部 バイオリソース開発センター

奥谷 岳人 (TEL)03-3533-7215 (E-mail) okutani9410236@oji-gr.com